

# こども園評価シート (2024(R6)年度自己評価)

本庄東幼稚園

## 1、園の教育目標

- 生命の尊重
- 思いやりの心
- 自由・自立

## 2、自己評価の目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

## 3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
<b>こどもの主体性の育成</b> こどもの思いを引き出す信頼関係を作り、決定させてみて挑戦する活動を行い、失敗してもその後のことを考える力をつけられるようにする。	<b>B</b>	年齢に応じてできていると思われるが、こどもが挑戦したり主体的に行える活動をもっと取り入れたかった。
<b>情報共有と伝え方</b> 『聞いていない』という事態をなくすことが最優先。そのうえで、どういう意図での情報なのかというところまで伝わるように工夫する。	<b>B</b>	だいぶ改善されたが、どういう意図の情報なのかまで伝わっていない。メモを活用してはいるが、うっかりミスもまだある。
<b>元気な挨拶</b> 職員が率先して行い見本を見せ、こどもたちに促していく。	<b>B</b>	職員間はおおむねできているが、改善の余地もある。園児にはまだまだ浸透していないため、今後の工夫と継続が必要。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	ある程度達成されている
C	取り組まれているが、達成度は低い
D	取組が不十分である

## 4、総合的な評価結果

結果	理由
<b>B</b>	園全体として、雰囲気や園児への接し方には合格点を出せる。職員一人ひとりが自覚を持ち、さらなるコミュニケーションをとることが望まれる。

## 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
こどもの主体性積極性の育成	継続しての課題。こどもが自分で考えた自由な発想を引き出す保育を活動内に多く取り入れる。
こどもの気持ちの言語化	こどもが自分の気持ちや考えを言葉で言えるよう、促し、待ち、言葉が分からないときは選択肢を示す。
職員間コミュニケーションのさらなる活性化	こどもの見本となる挨拶・返事を基本とし、一人ひとりが自覚をもって積極的にコミュニケーションをとり、012歳と345歳間・常勤と非常勤間等の壁を乗り越えて意思の統一を目指す。